



朝鮮の民話 1

お婆の トツガビ

松谷みよ子 瀬川拓男
梶山俊夫 絵

太平出版社

913.6	まつ	たに み よ こ	せがわたくお
	松	谷みよ子・瀬川拓男	再話
		おばけのトッカビ	
		朝鮮の民話 1	
		太 平 出 版 社	1972
		P 174 22cm	¥ 680

松谷みよ子 まつぎ 1926年東京に生まれる。『びわの実学校』同人。子どもの文化研究所の民話の研究会に所属。『龍の子太郎』で国際アンデルセン賞、『ちいさいモモちゃん』で野間児童文芸賞を受賞。

瀬川 拓男 せがわ 1929年東京に生まれる。劇団 太郎座を主宰。民話による歌劇・人形劇の脚本を数多く書く。モスクワ国際映画祭審査員、パリの国際青少年センター日本代表。おもな著書に『秋田の民話』『小説力太郎』など。

梶山 俊夫 かにやま 1935年東京に生まれる。1963年に渡欧。帰国後、全国の奈良時代廃寺跡・国分寺跡を歩く。多くの新羅系古瓦を発見しながら絵本作家の道にはいる。朝鮮李朝の民画「洞庭秋月」を最初の友とする。

おばけのトッカビ

朝鮮の民話 1

母と子の図書室 12-6

1972年 6月10日 第1刷発行

¥ 680

著 者 松 谷 みよ子
瀬 川 拓 男
発 行 者 崔 容 徳

発行所 東京都千代田区西神田1-2-15 石合ビル
株式会社 太 平 出 版 社 ©

T E L 291-9744・9752 294-7083 振替東京99563

落丁・乱丁本はおとりかえいたします

道野整版・加藤印刷



朝鮮の民話 1

お婆の
トツガビ

松谷みよ子・瀬川拓男
梶山俊夫・絵

太平出版社

母と子の図書室



太平出版社

原书空白

原书空白



朝鮮の民話1
おばけの
トツカビ
松みよ子・瀬川拓里
梶俊夫・絵



朝鮮の民話

おぼけの
トッカビ
もくじ

せかいのはじめど おゆり ¹²

きじとはととかささぎ ²³

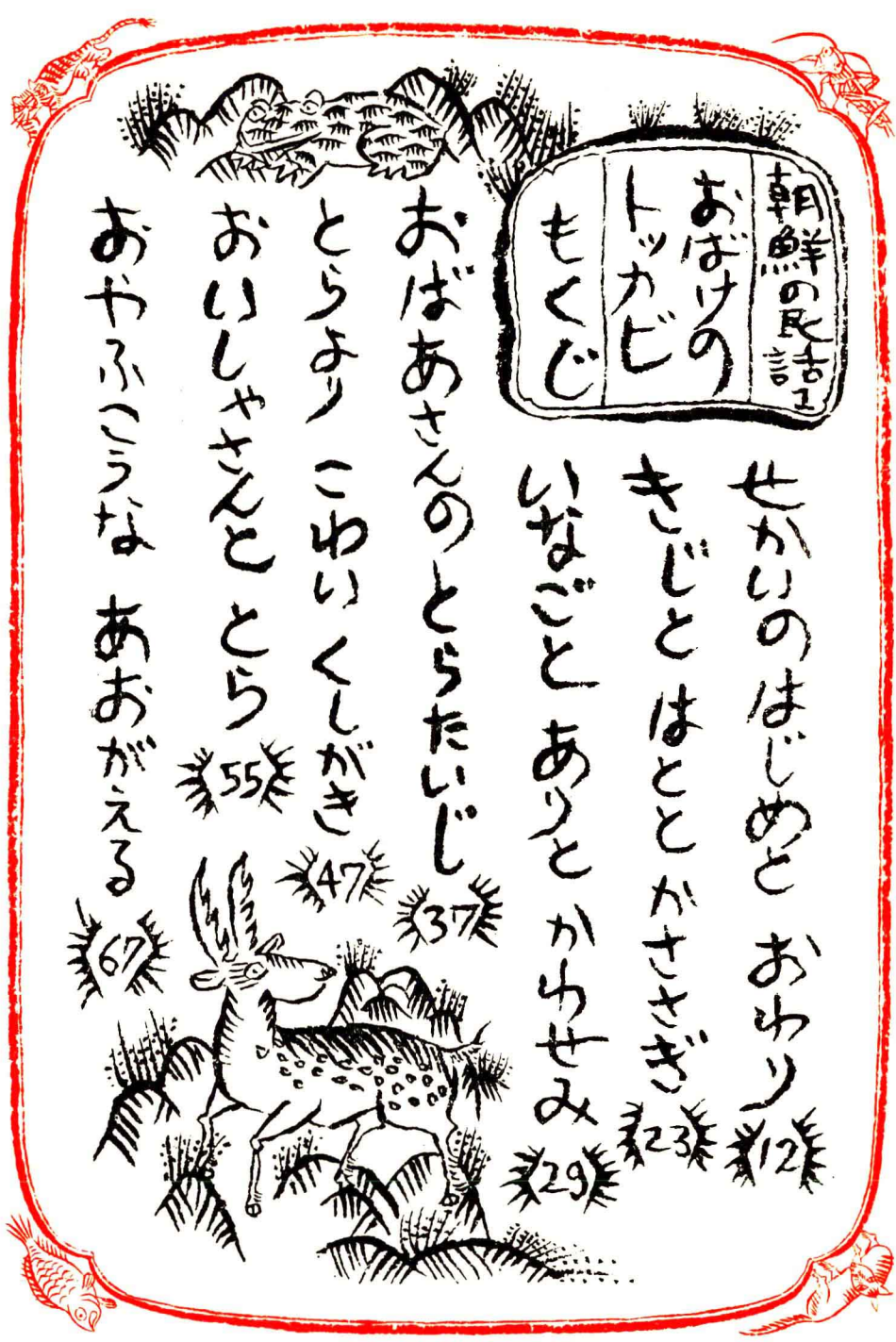
いなごとあうとからせみ ²⁹

おばあさんのとらたいじ ³⁷

とらゆりこゆいくしがき ⁴⁷

おいしやさんととら ⁵⁵

おやふこうな あおがえる ⁶⁷



がまがえるの おんがえし 73

ふしぎな ぶくへび 85

おはなし かめさん 93

龍^{リウ}の馬^{ウマ}と すもうをとる 105

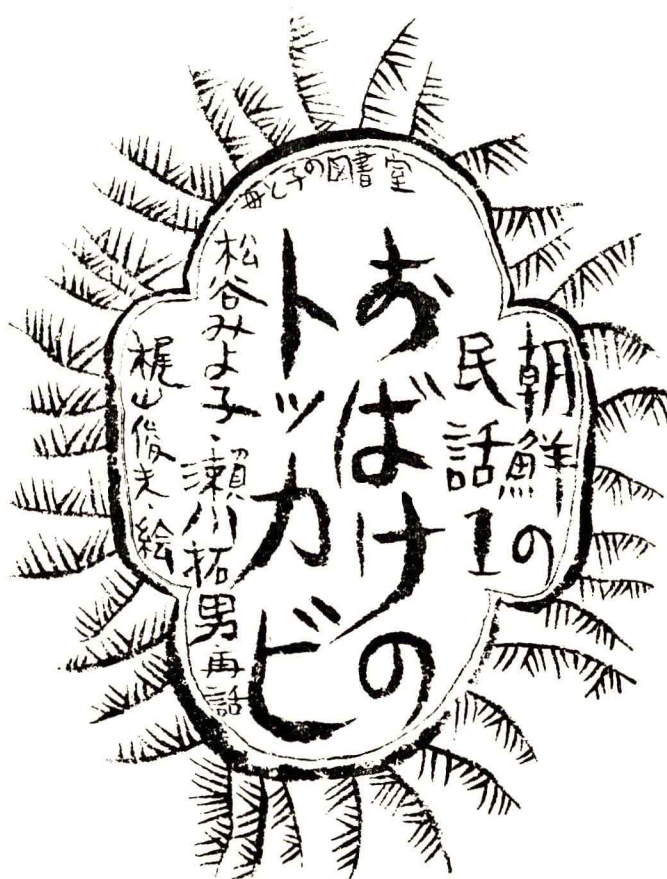
おばけの トッカジ 119

せんによの よめさま 145

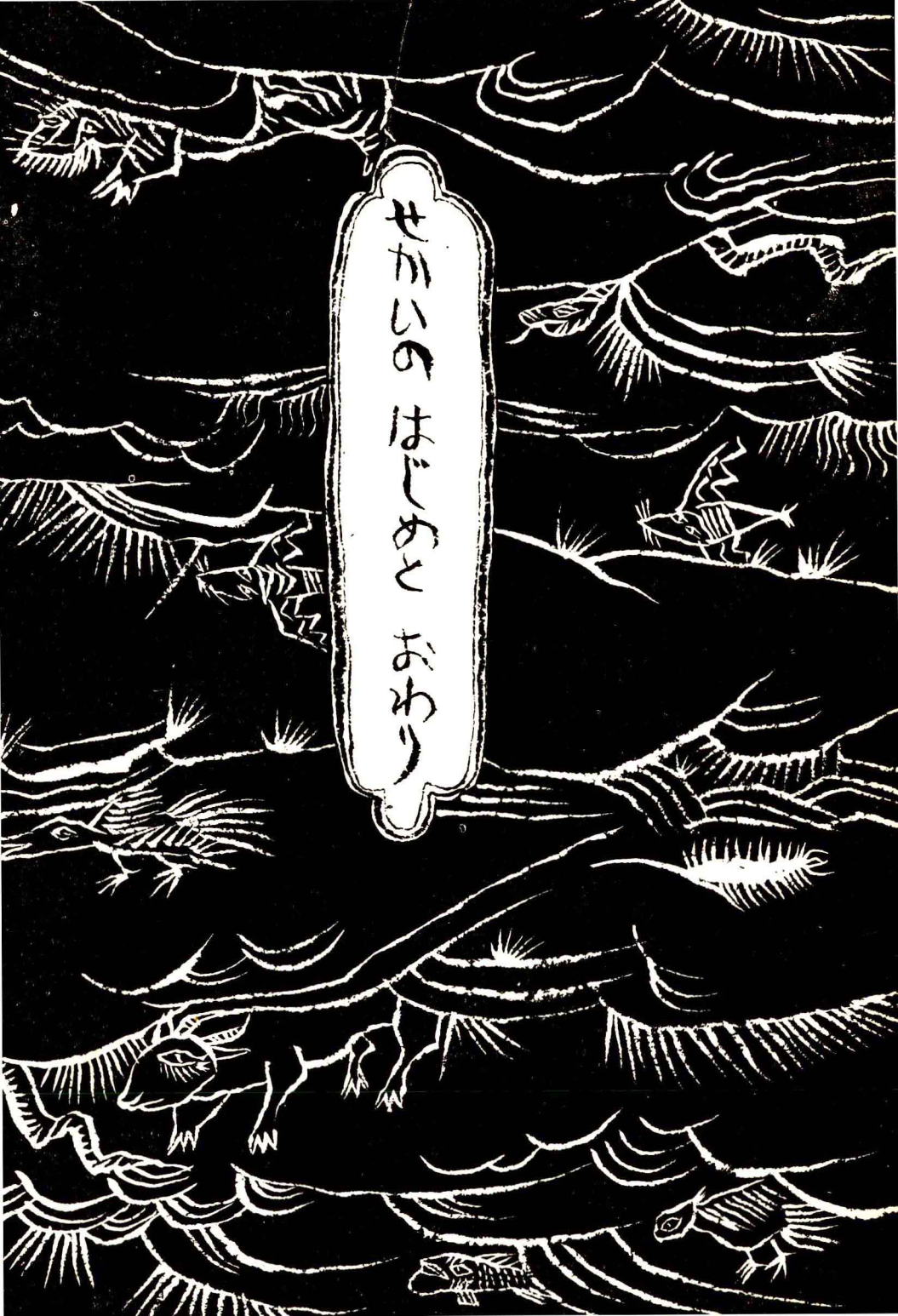
朝鮮の民話の特徴 あとがきに代えて 167







せかいのはじめとあり



むかし むかし。ずんと とおい むかし。

ひとりの ばあさまが、おおきな 石^{いし}うすを ごとり ごとり
まわしながら、わかい むすこや むすめたちに はなして いま
した。

きいて おくれ、子^こどもたち。

せかいの はじめ、天^{てん}と 地^ちは、父^{ちち}と 母^{はは}のように なかが よ
くて、いまのように とおく はなれては おらなんだ。

そうだよ。天と 地は、たがいに しつかり だきあい、やさし
い ためいきを つき、ささやきあつて おったのき。そうして
つぎつぎに 子どもを うんだ。とらや、きつねや、くじらや、に

んげんを うんだ。こうして たくさんの どうぶつが、この 地^ち
上^{じょう}で くらすように なった。

けど、天^{てん}と 地^ちが いつまでも だきあつて おったから、とら
も きつねも にんげんも、あたまが 天^{てん}に つかえて しもうて、
どうにも ならなんだ。よつんばいには つかえて あるいても、せま
くて せまくて どうにも ならん。なんとも くるしくて、べろ
りと したを だす。はあはあ ぜいぜい いきをつく。そうし
て どうぶつたちは、天^{てん}と 地^ちの わずかばかりの すきまを さ
がして、あっちへ さまよい、こっちへ さまよい、うなったり、
ほえたり、ないたり して おったのさ。

あるときの こと。

とつぜん 千^{せん}から 万^{まん}の かみなりが、いちどきにとどろいた。

ビカ ビカ ビカ、ガラ ガラ ガラ。

するどい いなずまが やみを つらぬき、あかあかと あたり
を てらすと、そこに、海^{うみ}ぼうずのような 山^{やま}ぼうずのような、

おそろしげな ものが むくむくと たちあがった。それは、とほ
うもなく でかい 大男^{おおおとこ}の すがただった。

ウング、ウング、ウング。

大男は ウング、ウング、うなりながら、天^{てん}をば かたに かつ
ぎあげ、ウング、ウング、ウング。

どこまでも どこまでも、たかく たかく、さしあげた。

こうして、天と 地^ちは、はなれて しもうた。